

平成 25 年度 専門家評価（専門家による第三者評価）の実施について

1 目 的

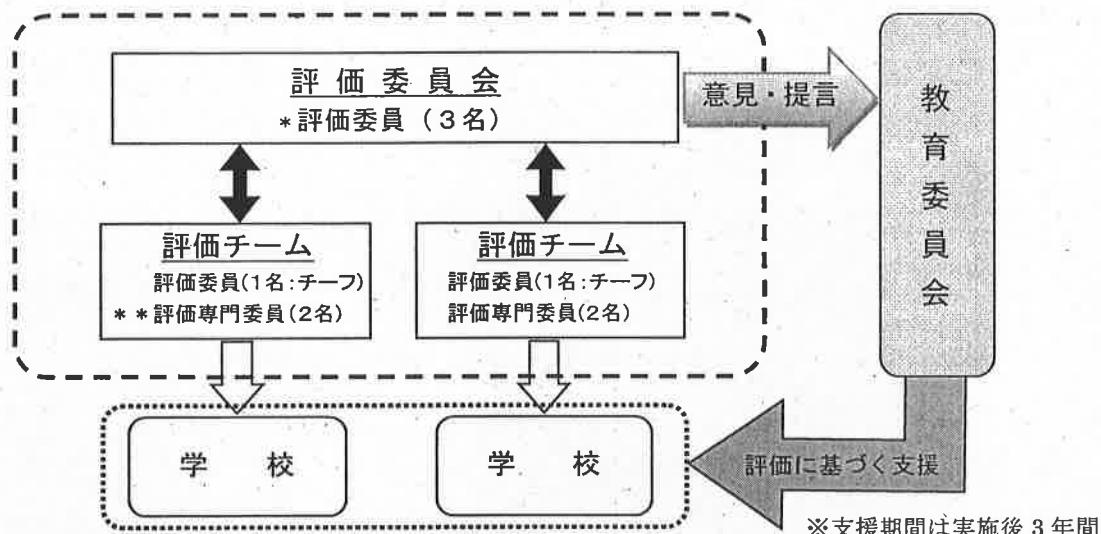
各学校が主体的に行う評価活動（自己評価・学校関係者評価）や教育委員会の支援について評価し、学校及び教育委員会に対して、その改善に向けた意見・提言を行うことにより、適切な学校の取組や教育委員会の支援を促進する。

2 対象校

尾長小学校、三入中学校

3 実施体制

平成25年度 実施体制イメージ図



* 「評価委員」

学校評価及び学校経営を含む学校教育について専門的な立場で評価することができる者で、学校及び教育委員会の運営に直接関係がない者

** 「評価専門委員」

教育に関する様々な分野の専門家で、学校及び教育委員会の運営に直接関係がない者

(1) 評価委員会

| 委 員 名 | | 所 属 ・ 役 職 |
|-------|--------|------------------------|
| 委 員 長 | 林 孝 | 広島大学 大学院教育学研究科 教授 |
| 副委員長 | 高妻 紳二郎 | 福岡大学 人文学部 教育・臨床心理学科 教授 |
| 副委員長 | 曾余田 浩史 | 広島大学 大学院教育学研究科 准教授 |

(2) 評価チーム

| | | |
|-----|-----------|--------------------------------|
| 尾長小 | チーフ(評価委員) | 高妻 紳二郎 (福岡大学 人文学部 教育・臨床心理学 教授) |
| | 評価専門委員 | 財津 伸子※ (比治山大学 非常勤講師、元 中学校長) |
| | 評価専門委員 | 平岡 満恵 (元 小学校長) |
| 三入中 | チーフ(評価委員) | 曾余田 浩史 (広島大学 大学院 教育学研究科 准教授) |
| | 評価専門委員 | 財津 伸子※ (比治山大学 非常勤講師、元 中学校長) |
| | 評価専門委員 | 瀧口 典子 (元中学校長) |

※小・中の評価専門委員を兼務

4 評価目的及び意見・提言

■ 尾長小学校

(1) 評価目的

学校教育目標「つながりを大切にし、ともに生きる子どもの育成」の達成のために取り組んでいる「尾長小学校アクションプラン25」などの教育活動や校長のリーダーシップ等を含めた学校経営の状況について、専門的な立場から客観的評価に基づいた助言を提供することで、学校改善の具体的な方向性を示す。

(2) 主な意見・提言

| 学校に対して | |
|--------------|---|
| ① 学校運営について | <ul style="list-style-type: none">年度当初に全体的な学校経営方針について共有はされているが、本校の教育活動、生徒指導上の中心となる教員に、校長がいつ・どこで・どんな声掛けをするかで学校経営方針の教職員への浸透度が異なってくるので、校長、教頭、主幹、教務主任、各推進委員会委員長等による<u>「作戦会議」</u>を継続するとよい。小・中連携をさらに強化することが地域の協力を得ることにもつながる。具体的な小・中連携を推進するためには、例えば、<u>小・中学校で研究テーマ等を同じにすること</u>が考えられる。また、定期的な生徒指導主事の連絡会や中学校区校長会等を連携強化につながる意味ある情報交換の場にするとよい。 |
| ② 授業について | <ul style="list-style-type: none">生徒指導の三機能を意識した授業づくりが進められているが、本時の目標とその目標を達成するための発問や活動を明確にすることが必要である。また、発問の工夫と評価に取り組んでいるが、<u>「発問と連携した板書の構造化」</u>をする必要もある。学習の様々な場面で<u>「書くこと」</u>を取り入れ、児童の書いたことから児童の学習への意欲や理解度を把握し、授業に生かすことが一層望まれる。 |
| 教育委員会に対して | |
| ① 研修について | <ul style="list-style-type: none">関係機関の声に耳を傾けることで、様々な思いが伝わってくる。それらの思いや要望を大切にすることはよいが、<u>寄せられる情報が偏っていないか、常に確認しておくことが必要である。</u><u>地域もPTAも学校の取組を評価しているが、教職員が地域にとってさらに身近な存在となるよう、例えば本校の教職員一人一人が継続的に行っていける良い取組などをPTAや地域の行事等の機会をとらえて紹介するとよい。</u> |
| ② 人事上の配慮について | <ul style="list-style-type: none">数年前の状況に比較して、現在のようやく落ち着きを見せつつある状況を維持し、さらなる落ち着きを図るために、<u>生徒指導加配が不可欠である</u>。現在の本校における様々な取組そのものが生徒指導加配により成り立っている。現在の状況が、校長の指導力の下、それに応える教頭、主幹、各主任、全教員の力で構築、推進されてきたので、<u>校長・教頭・教諭の人事については自校昇任と転任のバランス、生徒指導経験が豊富であり、かつ、授業実践を牽引するミドルリーダーになり得る職員の配置が望まれる。</u>保健室来室者数が多く、養護教諭の対応が困難となっているため、養護教諭定数の制約はあるが、養護教諭の複数配置が実現されれば、改善されることが期待される。 |
| ③ 予算上の配慮について | <ul style="list-style-type: none">尾長小学校において授業改善を進めていくために、児童理解に根差した授業改善の専門家を招へいするための<u>予算措置（講師招聘旅費・謝礼金）</u>が望まれる。 |

■ 三入中学校

(1) 評価目的

三入中学校が生徒の自尊感情及び学力を高めるために取り組んでいる「生徒指導の三機能を生かした授業づくり」やその指導の在り方とともに、地域の学校として信頼される学校づくりのための学校経営・組織マネジメントの状況を評価し、その充実・改善に向けた意見・提言を行う。

(2) 主な意見・提言

学校に対して

① 本校生徒としての誇りと自己肯定感を育てるための学校のビジョンの明確化について

- 「安佐北中学校（広島中等教育学校）」を不合格となった生徒への対応も大切であるが、入学前に生徒が抱いていた期待に応え、本校生徒としての誇りと自己肯定感を育てることが大切である。そのため、特色ある学校づくりや教育活動など、学校のビジョンを明確にすることが必要である。三入中学校の自慢できること、三入中学校にしかできないこと、三入中学校が目指すことなどの取組があれば、生徒は誇りをもって通学できる。生徒がはつらつと学校へ行けば、保護者からの批判も減り協力も得られると考えるべきであろう。
- 具体的には、学力向上の取組だけでなく、部活動・縦割り活動・学校行事の活性化を進め、評価・広報を進める（年一回は部活動の保護者会や参観を設ける、合唱祭に合わせて発表展示を行う、卒業式の飾りつけ・修学旅行の報告会などに縦割り活動を活用する）などのアプローチが必要である。そのため、校長は、教員が部活動や行事等の指導時間と気持ちのゆとりを作り出せるよう、教員の勤務体制について（現在も厚く配慮しているが、さらに）の工夫や新しい取組についての視察・研修を積極的に取り入れることなどが求められる。

② ビジョンを推進する力をもつ校内組織の必要性について

- 現在、新しい取組を強力に推進していく柱となる校内組織を機能させるべきである。経営委員会の指示・提案・実施・評価機能を確実にするなど、校長の指導の下にビジョンを学校全体のものにして推進する力をもつ組織が必要である。

③ どの教科にも共通させた学習の方法の導入について

- 授業について、どの教科にも共通な三入中学校の学習方法（授業の発言話型、ノートの書き方等、生徒が実行すること）を決めて取り組み、生徒に「学習に力を入れている学校だ」という意識を育てることが大切である。

④ キャリア教育について

- キャリア教育を充実させることによって、中学校3年間で何を学び、将来に向かって自らの夢を実現するためにどうするか、自分の進路をしっかりと考える力をつけることが重要である。また、1年生に校長面接などを行い、中学生としての自覚をもたせ、社会に出た際に必要な礼儀などを身に付けさせることが大切である。

⑤ 小学校との連携推進について

- 小学校（三入小学校、三入東小学校、大林小学校）との連携について、校長同士の話はできていると感じるが、具体策まで詰められていない。また、三入中学校の教員は、小学生の受験の動機、入学前の児童が三入中学校に対して抱いている期待や楽しみ等の実態（とりわけプラス面）を明確に把握できていない状況がある。小・中学校の教員同士が交流し、互いを知る機会を設けるなど、さらに協力体制を強める必要がある。

教育委員会に対して

① 人事上の配慮について

- 生徒指導加配、スクールサポート指導員、スクールソポーターの配置によって生徒を落ち着かせる指導ができている。本校が生徒指導対応をしながら学力向上に取り組む過渡期であるため、これらの支援を来年度も継続する必要がある。

② 施設設備について

- 教室のドアや廊下の照明の改修、必要な荷物が入る大きさの個人ロッカーの設置が必要である。

③ その他について

- 安佐北中学校（広島中等教育学校）との連絡会を行うことが望まれる。広島中等教育学校の今後の見通し、受験状況等について、近隣の中学校が実態を把握できるよう、小・中学校の校長連絡会等での情報交換を行うことが必要である。
- 校舎のつくりが複雑で死角が多く、生徒指導・安全面での不安が軽減されるように何らかの支援が必要である。